

第37回 港区景観審議会（令和8年3月24日開催）における「公募テーマ」に関する主な意見

No.	意見要旨
1	メインテーマで「景色」という言葉が使われている一方で、選択応募部門では「景観」という言葉が用いられている。こういった意図での使い分けとなっているのか。
2	区民景観セレクションは個人応募であるため「私が」とした方が良いのではないか。また、「受け継がれてきた」よりも「受け継ぎたい」とした方が区民の主体的な発信に繋がるのではないかと。
3	「伝えたい」や「引き継ぎたい」はテーマとして重く、区民が参加しにくいのではないかと。「私が見つけた」等の言葉を用いた方が、軽やかで区民も応募作品の想像がしやすいと思われる。
4	今回のテーマ設定の場合、応募作品がこれまでの区民景観セレクションで応募された作品と重複する可能性が多く発生するのではないかと。身近で小さな景色を応募するのであれば「私が見つけた」の方が良い。例えば、歴史的というところを強調すると、増上寺の写真が多く応募される、といった事態になることを危惧している。
5	選択応募部門との重複については、毎回少なくとも重複があるため、このままで良いと感じる。応募者が応募したいと思ったほうに応募をすれば良いのではないかと。応募することを後押しできるテーマにできると良い。
6	選択応募部門を残すことには賛成である。その場合、歴史・文化で重複が生じるため、「時間を超えて」等、歴史と文化を異なる角度から捉えるテーマ設定が望ましい。
7	歴史や文化を扱った場合は、寺社仏閣等有名なものが応募されやすい傾向に感じる。これまでの9回で作品の雰囲気パターン化しているようにも感じる。素敵な、ちょっと古くて楽しいもの、自分で発見するというような要素を含めると道路の継ぎ目等、自分で発見したディテールが面白いもの等も評価されると良いのではないかと。
8	「子や孫」といった言葉を入れ込むとより身近に感じて、応募の意欲がわきやすいのではないかと。
9	日本人にとって当たり前の景色も外国人にとっては「見つけた」景観として応募がある可能性がある。決して好ましい景観ではないが、特定の個人の気に入った景色をどのように評価していくかは、今後検討する必要がある。
10	港区は近年、色々な地区で再開発が起こっていて、街がすべて新しくなっているような感覚もある。このような状況を踏まえると、次回のセレクションテーマとしては、「無くしたくない」や「失いたくない」というフレーズにするのもありではないかと。あまり誘導的なテーマ設定にならない方が望ましいが、昔からある歴史文化の募集を目指す上では有効である。